

県道整備関係・南部給食センター関係について



原田 久夫 議員
(21 政会)

問 県道三木穴栗線加西地区の歩道整備について。

答 加東土木事務所からは、年次計画は特にないとのことでしたが、損傷が激しい危険な箇所については、通常の維持管理を個々にしっかりと対応していくとのことでした。市からも県へしっかりと要望します。

問 県道高砂加古川加西線改修計画について。

答 加東土木事務所としては、この路線の危険性は十分認識し、道路拡幅により安全性の確保が必要と考えているとのことでした。しかしながら、今のところ計画が無いことから、市としては、次期の社会基盤整備プログラムにしっかりと載せていただくよう、今後ともしっかりと要望します。

問 新南部給食センターの概要について。

答 設置場所は、上宮木町の加古川西部土地改良区西隣の農村環境改善センター用地に設置します。鉄骨2階建て、延べ床面積1,460平方メートル程度を予定しています。また調理能力としては2,000食を予定しています。南部学校給食センター完成後には3つの単独調理校を北部と南部にそれぞれ統合し、平成31年4月から2センター方式とし、受配校を

再編したいと考えています。

問 南部給食センターの跡地利用について。

答 新たな給食センター開設後、31年度に解体予定で、跡地については、普通財産として教育委員会から市長部局のほうへ所管換えになります。跡地利用について教育委員会としては、社会教育としての要望、需要を踏まえた活用をお願いしたいと思っています。

市長部局としては、先ほど教育長が答弁しましたように、社会教育での活用、市全体の活用、地域の方々のご要望、意見等総合的に判断したいと考えます。

■その他の質問項目

- ・ 鷲野飛行場線及び市道整備関係
- ・ 防災・消防関係

公共交通（ねっぴ〜号・はっぴーバス）の運営について



三宅 利弘 議員
(21 政会)

問 直近の運行状況は。

答 コミバスねっぴ〜号の運行便数は、1日当たり市街地線が11.5往復、国正線が2往復、九会線が2.5往復、フラワーセンター線は行きが2便、帰りが5便という状況です。また、はっぴーバスは、各線で5〜6往復しています。平成29年度は、1月までの累計で2万3,000人以上の方に利用いただいています。主に通勤通学や医療機関への利用で午前中の便が多くなっています。

問 地域主体型交通の取り組みについて。

答 地域主体型交通は、民間路線のバスや鉄道、コミバス等の既存の公共交通サービスが行き届かない交通不便地域において、車を使えない方の足として、地域の方々が主体的に運営や運行にかかわる交通システムです。地域の交通課題の解決に向けて取り組むことで、利用者ニーズへの柔軟な対応ときめ細やかなサービスの提供を可能とし、地域に親しまれ利用される公共交通を育ていくことを目的とします。各地域で検討のためのガイドラインとして「地域主体型交通導入手引き」を作成しています。宇仁地区では、平成28度からこの手引きに基づき導入検討のためのアンケート調査を実施し、協議が進められています。

問 デマンド型タクシーの導入について。

答 全国ではさまざまな方法で導入されていますが、それぞれの運行方法には、長所、短所があり、どの運行方法が最適であるかは、人口構成や面積、人口密度、民間の交通事業者の状況等各地域によって全く状況が異なるため、それぞれの事情に応じた運行方法を模索する必要があります。加西市の場合、北条中心に民間バス事業者による公共交通網がひかれており、市街地まで直接運行するタクシー型交通は、既存の公共交通との役割分担を考慮し、慎重に検討を進める必要があります。

■その他の質問項目

- ・ 公契約条例の検討
- ・ 入札について